

## 2019 年度事業報告

本報告は、定款第 39 条に基づき監事の監査を受け令和 2 年度第 1 回理事会にて承認を得ております。

### 公益社団法人日本栄養・食糧学会 2019 年度（平成 31 年 4 月 1 日 ～ 令和 2 年 3 月 31 日）事業報告

#### <概要>

平成 23 年 9 月 1 日の公益社団法人化からの第 9 期目として、平成 31 年 4 月 1 日より平成 31 年度の各事業をスタートさせた（平成 31 年は、5 月 1 日に令和元年と改元された）。令和元年 5 月 17 日に社員総会を開催し、平成 30 年度決算書の件につき議決するとともに、平成 31 年度・令和元年度事業計画の件、同年度収支予算計画の件、平成 30 年度事業報告等の報告を承認した。

平成 30 年度事業報告、同年度決算書については令和元年 6 月 18 日に、また、平成 31 年度事業計画、同年度収支予算計画については平成 31 年 3 月 30 日に内閣府に報告した。

栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業（公 1 事業）として、次の活動を行った。中部支部の担当による第 73 回年次大会（開催市：静岡県静岡市、会場：静岡市清水文化会館マリナート及び静岡県立大学、会頭：合田 敏尚 静岡県立大学副学長兼教授）を開催し、1,755 名の参加を得て、基調講演、教育講演、シンポジウム、市民公開講座、一般演題発表等を通じて、栄養科学・食糧科学の最新情報を交換する場となった。また、第 74 回年次大会については東北支部担当（会頭：宮澤陽夫 東北大学教授）で開催（開催市：仙台市、会場：仙台国際センター及び東北大学）することになり、その準備として、プログラム、会場、運営等の活動を精力的に進めた。支部事業については、全支部において、それぞれの支部により計画、立案、企画されたテーマのもとに支部大会およびシンポジウム等を開催した。

栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業（公 2 事業）においては、引き続き日本栄養・食糧学会誌を効率的な編集方針のもとに定期的に刊行（第 72 巻 2 号～6 号、第 73 巻 1 号）し、欧文誌 JNSV 刊行においては、日本ビタミン学会とともに構成している JNSV 編集委員会を中心となって、数年来検討を続けてきたペーパーレス化を実施し、平成 30 年 2 月の Vol. 64-No. 1 より電子版を主とした公開を行い、順調に経過している。希望者には有料での冊子体の頒布を継続している。

理事会を中心に、公益法人としてのガバナンスの向上、会員サービスの向上に努め、利益相反（COI）については、「栄養・食糧学研究の利益相反に関する指針」並びにその細則の改訂案について、本格的に運用している。申告者の利便性向上の観点から、更なる制度改良を検討中である。また、年次大会参加者の利便性向上の観点から、講演要旨集の Web 公開を継続実施している。

加えて平成 27 年度に新設した技術賞の選考を行い、2 件の授与を決定し、本学会における産官学連携のさらなる推進を図った。

若手会員の活性化を目指した事業の検討を、学会活動強化委員会を中心に進め、昨年度に引き続き、個人会員 1 名からの寄付を得て、若手研究助成の対象枠を 1 名増とするとともに、学生優秀発表賞を次年度も継続すべく準備を行った。

#### I 会員の動き

##### 1) 会員の状況（令和 2 年 3 月 31 日現在）

名誉会員	37 名
終身会員	158 名
正会員	2872 名
学生会員	742 名
団体会員	61 件
賛助会員	69 件（82 口）
学会誌定期購読団体	107 件

##### 2) 2019 年度（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）物故会員（敬称略）

終身会員：伊澤 正夫、伊東 禎男、垣沼 淳司、草野 毅徳、中嶋 洋子、長谷川 忠男、山本 良子、湯山 駿介  
正会員：伊藤 光史、窄野 昌信、高野 靖

##### 3) 支部別会員数 令和 2 年 3 月 31 日付

支部名	会員種別	名誉会員	終身会員	正会員	学生会員	団体会員	賛助会員 [口数]
北海道支部		0 (± 0)	7 (- 1)	85 (- 2)	37 (+ 3)	1 (± 0)	1[1] (± 0)
東北支部		2 (± 0)	10 (+ 3)	157 (- 5)	45 (+ 5)	1 (± 0)	0[0] (± 0)
関東支部		18 (± 0)	59 (- 2)	1124 (-27)	213 (+ 1)	32 (- 1)	57[70] (+ 2)
中部支部		3 (± 0)	18 (± 0)	365 (± 0)	108 (+18)	4 (± 0)	3[3] (± 0)
近畿支部		5 (± 0)	40 (± 0)	602 (-10)	170 (-66)	9 (± 0)	6[6] (+ 1)
中国・四国支部		3 (+ 1)	13 (± 0)	295 (-13)	97 (-11)	10 (± 0)	2[2] (± 0)
九州・沖縄支部		6 (± 0)	11 (+ 3)	239 (- 3)	69 (- 8)	4 (± 0)	0[0] (± 0)
海外		0 (± 0)	0 (± 0)	5 (± 0)	3 (+ 1)	0 (± 0)	0[0] (± 0)
合計		37 (+ 1)	158 (+ 3)	2872 (-60)	742 (-57)	61 (- 1)	69[82] (+ 3)

( ) 内は平成31年3月31日会員数に対する増減を示す。

## II 各種事業活動の推進報告

### < 栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業（公1） >

#### 1) 大会事業

(1) 第73回日本栄養・食糧学会大会の開催(会頭 合田 敏尚 静岡県立大学副学長)

令和元年5月17日(金)～5月19日(日) 静岡市清水文化会館マリナート、静岡県立大学

##### \*特別講演

「超高齢者社会に資する食品機能」

宮澤 陽夫(東北大学未来科学技術共同研究センター)

「イネの基礎研究からグローバル展開へ」

芦荊 基行(名古屋大学)

「脂質の量と質の変容をもたらす臓器病態と栄養戦略」

島野 仁(筑波大学)

「栄養学からみたエピゲノム記憶の分子機構と医学応用」

小川 佳宏(九州大学)

「和食と茶」

熊倉 功夫(ふじのくに茶の都ミュージアム)

##### \*教育講演

「時間栄養学」

柴田 重信(早稲田大学大学院)

「フレイルと介護予防の視点から見た栄養の重要性と課題」

佐竹 昭介(国立長寿医療研究センター)

「生活習慣リスクファクターとしての生体膜脂肪酸鎖の新たな機能」

新井 洋由(東京大学)

「ミツバチがつくる蜂産品の化学と機能性」

熊澤 茂則(静岡県立大学)

「栄養と腸内フローラから考える腸内環境からの健康科学」

國澤 純(医薬基盤・健康・栄養研究所)

「抜本的なポピュレーションアプローチとしての「健康な食事・食環境」の推進」

武見ゆかり(女子栄養大学)

##### \*国際シンポジウム「New and Established International Journals for Nutrition and Food Science—Scope, Task, and Our Contribution」

「Food & Function—Linking the Chemistry & Physics of Food with Health & Nutrition」 Morand Christine  
(French National Institute for Agricultural Research)

「Nature Partner Journal Science of Food: A Journal for the Sake of Science and People」 Rao Pingfan  
(ZJGS University Joint Center for Food and Nutrition, China)

「JAF—Your Gateway to a Global Science Community」 Yoshinori Mine  
(University of Guelph, Canada)

「Nutrients Ten Years: Development, Challenges and Future Prospects」 Zhang Xiaocen  
(Editorial Office of Nutrients, MDPI)

##### \*日本医学会連合加盟学会連携フォーラム「高齢者糖尿病をめぐる栄養学的課題とその展望」

「健康長寿を目指した高齢者糖尿病の栄養療法—メタボ対策からフレイル対策へ」

荒木 厚(東京都健康長寿医療センター)

「高齢者糖尿病の認知機能障害」

鈴木 亮(東京医科大学)

「ポリフェノールによるアルツハイマー病遅延効果」

小林 彰子(東京大学大学院)

「インスリン抵抗性におけるBCAAパラドックス」

北浦 靖之(名古屋大学大学院)

「宇宙栄養学から見た抗筋萎縮栄養法」

二川 健(徳島大学大学院)

\*シンポジウム 18 テーマ

\*市民公開講座 1 テーマ

一般講演 522 題

参加者数 1755名(内 非会員 531名)

#### (2) 支部事業

##### ①北海道支部

\*第49回日本栄養・食糧学会北海道支部大会

令和元年8月31日(土)～9月1日(日) 帯広畜産大学 講義棟、総合研究棟Ⅲ号館

公開シンポジウム「機能性脂質の栄養と新たな展開」

「食品に含まれる色素成分の健康機能性」

前多 隼人(弘前大学)

「 $\gamma$ -オリザノールの吸収代謝と生理作用：食薬区分運用改善の働き」

仲川 清隆(東北大学大学院)

「皮膚に効果を与える脂質成分—スフィンゴ脂質とカロテノイド」

菅原 達也(京都大学大学院)

特別講演

「過酸化脂質研究を基盤にした機能性食品開発」

宮澤 陽夫(東北大学未来科学技術共同研究センター)

参加者数 50名(内 非会員 20名)

一般講演 9題

## ②東北支部

### \*第53回日本栄養・食糧学会東北支部大会

日本食品科学工学会東北支部と合同支部大会

令和元年11月16日(土)～17日(日) 東北大学片平さくらホール

公開シンポジウム「ここまでわかった食品の栄養・嗜好・機能」

「機能性フードペアリング：食品因子の機能的相互作用」

立花 宏文(九州大学大学院)

「分析技術が先導する食品(こめ油)のR&D～MSや近赤外分光技術の有効活用～」

橋本 博之(築野食品工業株式会社)

「炭酸や香辛料成分の受容機構と味受容体の遺伝子多型の解析」

駒井三千夫(東北大学名誉教授)

「味と香りの連携がおいしさを造る」

下田 満哉(九州大学名誉教授)

参加者数 106名(内 非会員 45名)

一般講演 15題

## ③関東支部

### \*第104回日本栄養・食糧学会関東支部大会

令和元年9月14日(土) 東京農工大学農学部2号館

シンポジウム「代謝研究手法の新展開」

「質量分析イメージングで代謝物・機能性成分を見る」

財満 信宏(近畿大学)

「生体イメージングによる腸管機能の可視化解析」

安達 貴弘(東京医科歯科大学)

「マウスの腸管オルガノイドを用いた腸上皮細胞機能の解析」

園山 慶(北海道大学大学院)

「オルガノイド培養法を用いた消化管、味蕾、肝臓研究」

岩槻 健(東京農業大学)

「生理学的応答取得のための肝・腸管培養システム」

酒井 康行(東京大学大学院)

参加者数 72名(内 非会員 38名)

### \*第21回健康栄養シンポジウム

令和2年2月8日(土) お茶の水女子大学講堂(徽音堂)

シンポジウム「筋肉と食の科学～健康長寿に繋げる最新研究～」

「たんぱく質の必要量とフレイル予防の目標量について」

百武 愛子(神戸学院大学)

「骨格筋線維タイプの食品成分による制御」

水野谷 航(麻布大学)

「要介護高齢者の筋力と食成分による維持改善の可能性」

阿部 咲子(介護老人保健施設スカイ)

「廃用性筋萎縮と食成分」

二川 健(徳島大学大学院)

「筋萎縮に伴う毛細血管退行と食成分による制御」

藤野 英己(神戸大学)

参加者数 164名(内 非会員 101名)

### \*第105回日本栄養・食糧学会関東支部大会

新型コロナウイルス感染症が国内で拡大している状況を受け延期

東京農業大学世田谷キャンパス

シンポジウム「エピゲノム研究の最前線と栄養学からみたエピゲノム制御」

「妊娠時低栄養による食塩感受性高血圧発症機序」

西本 光弘(東京大学先端科学技術研究センター)

「免疫細胞の分化・腫瘍化を制御するエピジェネティクス」

伊川 友活(東京理科大学)

「栄養と外部環境による脂肪のエピゲノム制御」

稲垣 毅(群馬大学)

「胎児期低タンパク質暴露による食塩感受性高血圧とエピゲノム」

加藤 久典(東京大学大学院)

「栄養学からみたエピゲノム記憶」

小川 佳宏(九州大学)

## ④中部支部

### \*第76回日本栄養・食糧学会中部支部大会

令和元年11月16日(土) ツインメッセ静岡 中央棟

特別講演

「大豆イソフラボンの代謝産物エクオールと腸内細菌」

石見 佳子(東京農業大学)

参加者数 45名(内 非会員 9名)

一般演題 11題

## ⑤近畿支部

### \*第10回栄養学を志す若手のためのフォーラム

令和元年11月23日(土) 京都府立大学 稲盛記念会館

「基礎と応用の栄養学研究」

講演

「基礎研究に基づくビタミンDの作用」

金子 一郎(徳島大学大学院)

「疾患予防のための脂溶性ビタミン栄養状態を考える」

栗原 晶子(大阪府立大学)

「骨格筋機能におけるビタミンDの役割」

亀井 康富(京都府立大学大学院)

参加者数 51名(内 非会員 33名)

### \*第58回日本栄養・食糧学会近畿支部大会

令和元年11月16日(土) 京都大学 北部キャンパス農学部総合館

公開特別講演「栄養学研究の最前線はどこにあるか」

「栄養素・食品成分による記憶制御機構」

喜田 聡(東京大学大学院)

「栄養素に対する食欲を調節するメカニズム」  
「摂食リズムによる臓器連関作用と代謝生理学的適応」  
参加者数 224名 (内 非会員 99名)  
一般演題 58題

佐々木 努 (京都大学大学院)  
志村 哲也 (徳島大学大学院)

#### ⑥中国・四国支部

##### \*第52回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会

令和元年10月26日(土)～27日(日) 高知県立大学 永国寺キャンパス 教育研究棟  
市民公開講座

「どうなる?これからの食糧生産」

知覧 行隆 (株式会社ミタデン)

「食品を安全に作り安全に食べるために知っておくべきこと」

宮澤 公栄 (エコア株式会社)

##### 特別講演

「慢性腎臓病の克服と健康寿命延伸—食事管理の重要性—」

北島 幸枝 (東京医療保健大学)

「リン摂取と老化—最近の知見より」

宮本 賢一 (徳島大学大学院)

参加者数 58名 (内 非会員 4名)

一般講演 25題

#### ⑦九州・沖縄支部

##### \*2019年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会

日本食品科学工学会西日本支部合同大会

令和元年10月12日(土) グランデはがくれ

令和元年10月13日(日) 佐賀大学農学部1号館

公開シンポジウム「佐賀と栄養・食糧・食品科学」

「食事リン脂質の脂質代謝調節に関する研究」

城内 文吾 (九州大学大学院)

「二酸化炭素を用いた食品の微生物制御に関する研究」

野間 誠司 (佐賀大学)

「佐賀市に生息する微細藻類を新しい生物資源に！」

出村 幹英 (佐賀大学)

「水熱処理法を用いた佐賀産植物のバイオマスの利用展開」

林 信行 (佐賀大学)

「有明ノリや米麴に含まれる低分子天然成分に関する最近の知見」

光武 進 (佐賀大学)

「地域水産物由来機能性構造脂質の栄養生理作用に関する研究」

永尾 晃治 (佐賀大学)

参加者数 69名 (内 非会員 12名) 1日目

89名 (内 非会員 33名) 2日目

一般講演 32題

## 2) 大会事業準備

### (1) 第74回日本栄養・食糧学会大会の開催

会頭 宮澤 陽夫 (東北大学未来科学技術共同研究センタープロジェクトリーダー・教授)

令和2年5月15日(金)～5月17日(日) 宮城県仙台市

\*会頭講演 1題

\*特別講演 3題

\*教育講演 10題

\*シンポジウム 15テーマ

\*市民公開講座 1テーマ

\*一般講演 509題

### (2) 第75回日本栄養・食糧学会大会開催準備

令和3年6月5日(土) 年次総会 東京都文京区お茶の水女子大学講堂徽音堂

22nd IUNS-ICN (第22回国際栄養学会議) 開催準備

令和3年9月14日(火)～19日(日) 東京国際フォーラム

関東支部(大会準備責任者・組織委員長 加藤 久典 東京大学大学院)が開催担当支部として準備を進めた。

### (3) 第76回日本栄養・食糧学会大会開催準備

年次総会 令和4年6月、兵庫県

近畿支部(大会準備責任者 芦田 均 神戸大学大学院)が開催担当支部となった。

## 3) 表彰事業および助成・助成推薦事業

本事業は、各種授賞等選考委員会並びに学会活動強化委員会を通じ展開された。

### (1) 第1回各種授賞等選考委員会(5/17)が開催され、事業方針・スケジュールを確認した。

### (2) 第2回各種授賞等選考委員会(12/21)が開催され、令和2年度表彰の功労賞2件、学会賞2件、奨励賞3件、技術賞2件、栄養・食糧学基金研究助成対象者2件、栄養・食糧学基金若手助成対象者3件を選考し理事会に上申した。

(3) 学会活動強化委員会活動としては、

- ①学術企画の支援として学会活動強化費申請（4件）のメール審査を行い、修正後、再提出を求めたうえで全て承認した。
- ②栄養・食糧学基金研究助成・若手研究助成・国際助成の審査を行い、各種授賞等選考委員会へ報告を行った。
- ③学生優秀発表賞の募集、選考を行った。

(4) 令和元年度表彰授与式開催

①令和元年度受賞者

功労賞	2件	近藤 和雄	知地 英征	
学会賞	2件	立花 宏文	松井 徹	
奨励賞	3件	金子 一郎	城内 文吾	細野 崇
技術賞	2件	大塚製薬株式会社（中川 恭、甲田 哲之、濱田 広一郎、斎藤 高雄、菅谷 建作） 物産フードサイエンス株式会社（栃尾 巧、門田 吉弘） （北浦 靖之 [名古屋大学大学院]、遠藤 明仁 [東京農業大学]）		

②令和元年度栄養・食糧学基金研究助成者

栄養・食糧学基金研究助成	井上 博文	山根 拓也	
栄養・食糧学基金若手研究助成	近藤 位旨	辻 愛	前田 晃宏
栄養・食糧学基金国際助成	青 美空	原田 萌香	安田 純

(5) 令和2年度対象の各賞候補者の公募、栄養・食糧学基金の研究助成・若手研究助成対象者募集記事を学会誌第72巻4号、ホームページ及びメールニュースに掲載した。栄養・食糧学基金 国際交流助成令和元年度後期の募集を学会誌第72巻3号・令和2年度前期の募集を学会誌第72巻6号、及びホームページ・メールニュースに掲載した。

(6) 表彰事業の協賛のため3企業・1団体へ依頼し応諾された。

(7) 下記外部団体からの研究褒賞候補者推薦依頼・研究助成募集の周知を図った。

①研究褒賞候補者推薦依頼

天野エンザイム(株)/酵素応用シンポジウム研究奨励賞	(公財)安藤スポーツ・食文化振興財団/安藤百福賞
(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団/飯島藤十郎食品科学賞&飯島藤十郎食品技術賞	
(公財)上原記念生命科学財団/上原賞	(公財)木原記念横浜生命科学振興財団/学術賞
慶應義塾医学振興基金/慶應医学賞	第一生命保険株式会社/保健文化賞
(公財)辻静雄食文化財団/辻静雄食文化賞	(一財)東京顕微鏡院/遠山椿吉記念 健康予防医療賞
(公財)内藤記念科学振興財団/内藤記念科学振興賞	(一社)日本医師会/日本医師会医学賞・医学研究奨励賞
(独)日本学術振興会/日本学術振興会賞・育志賞	(公社)日本看護協会/ヘルシー・ソサエティ賞
(一社)日本病院会 (公社)全日本病院協会/山上の光賞	福井県小浜市/杉田玄白賞
(一財)バイオインダストリー協会/大賞・奨励賞	(公財)三島海雲記念財団/三島海雲学術賞
(公財)森永奉仕会/森永奉仕会賞	(一財)材料科学技術振興財団/山崎貞一賞

②研究助成募集の周知

(公財)アサヒグループ学術振興財団	(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団
(公財)上原記念生命科学財団	うま味研究会
(公財)浦上食品・食文化振興財団	(公財)エリザベス・アーノルド富士財団
(独)科学技術振興機構	(一財)旗影会
(一財)キャノン財団	公益信託家政学研究助成基金
(公財)笹川スポーツ財団	(公財)サッポロ生物科学振興財団
(一社)Jミルク	(公財)杉浦記念財団
(公財)住友生命健康財団	(公財)ソルト・サイエンス研究財団
(公財)タカノ農芸化学研究助成財団	(公財)ダノン健康栄養財団
(一社)中央味噌研究所	(公財)東洋食品研究所
(公財)内藤記念科学振興財団	(公財)日本科学協会
(公財)日本食品化学研究振興財団	(公財)不二たん白質研究振興財団
(公財)ホクト生物科学振興財団	(公財)本庄国際奨学財団
抹茶と健康研究会	(公財)三島海雲記念財団
(公財)森永奉仕会	やずや食と健康研究所
(公財)山崎香辛料振興財団	(公財)山田科学振興財団
(公財)ロッテ財団	

(8) 外部団体への推薦

- ① 公益財団法人 内藤記念科学振興財団  
2019年度内藤記念講演助成金(秋季)決定
- ② IUFoST World Congress 派遣若手研究者助成決定
- ③ 公益財団法人山田科学振興財団  
2020年度研究援助候補者を各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、2件を学会として推薦

(9) 研究活動の奨励

- 第73回大会時に下記関連学術集会を支援
- ① コラーゲンペプチド機能研究会の開催
  - ② 栄養学若手研究者の集いの開催
  - ③ ヒトエネルギー代謝研究若手の会の開催

4) 栄養科学・食糧科学に関する研究・調査事業

本事業は、下記2テーマで、栄養成分表示・栄養教育の検討は非常置委員会として、栄養・食糧学用語に関する検討は平成28年度より常置委員会としてそれぞれの委員会で展開された。

以下各テーマについて主な進捗を報告する。

- (1) 栄養成分表示・栄養教育の検討  
食事摂取基準の改定の進捗状況を検討しつつ、第73回大会において日本人の摂取基準(2020年版)に関するシンポジウムを開催した。講演内容について学会誌への投稿をシンポジストに依頼した。
- (2) 栄養・食糧学用語に関する検討  
栄養・食糧学用語辞典(第2版)における見出し語ならびに説明文の検証を行い、ホームページへの改訂版掲載に向けて作業を行った。

5) 国際交流事業

- (1) International Union of Nutritional Sciences (IUNS) 関係  
IUNS 理事の宮澤陽夫教授、日本学術会議 IUNS 分科会との協調のもと IUNS の活動に協力した。
- (2) 22nd IUNS-ICN (ICN2021) 関係  
IUNS 本部との打ち合わせを行い、プログラムの検討など第22回国際栄養学会議の準備を進めた。
- (3) Federation of Asian Nutrition Societies (FANS)  
同会会長の宮澤陽夫東北大学教授、事務局長の加藤久典東京大学特任教授による最後の業務を行い、次期事務局(インドネシア)への引継ぎを行った。13th Asian Congress of Nutrition (インドネシア)を支援し、また本学会企画のシンポジウムを行った。
- (4) International Union of Food Science and Technology (IUFoST) 関係  
IUFoST Japan と連携しその事業を支援した。
- (5) 10月15日~18日の Federation of European Nutrition Societies (FENS) 大会(ダブリン)にて第22回国際栄養学会議(22nd IUNS-ICN2021 東京)の広報活動を行い、さらに本学会企画のシンポジウムを行った。
- (6) 第73回大会での国際シンポジウムの実施と第74回大会での韓国 KFN との国際シンポジウムを企画して準備を行った。
- (7) 12月1日~5日の ICoFF2019/ICPH2019/ISNFF2019 合同開催において本学会企画のシンポジウムを行った。

6) 倫理審査事業

本事業は、倫理審査委員会を通じ展開されている。

- (1) 倫理審査申請依頼(申請書番号89番)に基づきメール審議で倫理審査委員会を開催、申請書の修正・再提出の後、審査結果に基づき承認

< 栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業（公2） >

1) 出版事業の推進

本事業に関しては、日本栄養・食糧学会誌編集委員会が担当するとともに、JNSV 刊行においては、日本ビタミン学会との共同編集として発刊した。これらの学術誌の発刊は、(一財)学会誌刊行センターに委託している。

(1) 日本栄養・食糧学会誌 第72巻2号～6号、第73巻1号

①投稿状況

令和2年3月31日現在 投稿数（うち採択数）

受付日	全投稿数	総説	報文	研究ノート	資料	速報
平成30年4月	4(2)	0	2(0) <sup>注1</sup>	1(1)	1(1) <sup>注2</sup>	0
平成30年5月	1(0)	0	1(0) <sup>注3</sup>	0	0	0
平成30年6月	3(1)	1(1) <sup>注4</sup>	1(0) <sup>注1'</sup>	1(0)	0	0
平成30年7月	6(6)	3(3) <sup>注5</sup>	1(1)	2(2) <sup>注6</sup>	0	0
平成30年8月	3(2)	1(1) <sup>注7</sup>	2(1) <sup>注8</sup>	0	0	0
平成30年9月	2(1)	1(1) <sup>注11</sup>	1(0)	0	0	0
平成30年10月	2(1)	0	1(0)	1(1) <sup>注3'</sup>	0	0
平成30年11月	2(1)	0	1(0)	1(1)	0	0
平成30年12月	0	0	0	0	0	0
平成31年1月	0	0	0	0	0	0
平成31年2月	1(0)	0	1(0) <sup>注9</sup>	0	0	0
平成31年3月	2(1)	0	1(1)	1(0) <sup>注10</sup>	0	0
平成31年4月	4(2)	1(1) <sup>注11</sup>	1(0) <sup>注12</sup>	1(1) <sup>注9'</sup>	1(0)	0
令和元年5月	3(2)	0	3(2)	0	0	0
令和元年6月	4(3)	2(2) <sup>注13</sup>	0	1(1)	1(0)	0
令和元年7月	4(2)	2(2) <sup>注13</sup>	2(0) <sup>注14</sup>	0	0	0
令和元年8月	5(1)	1(1) <sup>注15</sup>	2(0) <sup>注16</sup>	2(0) <sup>注17注18</sup>	0	0
令和元年9月	1(1)	1(1) <sup>注19</sup>	0	0	0	0
令和元年10月	3(1)	0	3(1) <sup>注20</sup>	0	0	0
令和元年11月	3(1)	0	1(1)	0	2(0) <sup>注16'</sup>	0
令和元年12月	2(1)	0	0	2(1) <sup>注14'</sup>	0	0
令和2年1月	0	0	0	0	0	0
令和2年2月	3	0	2(審査中)	0	1(審査中) <sup>注17'</sup>	0
令和2年3月	1	1(審査中) <sup>注19</sup>	0	0	0	0

※採否が確定していない論文がある月：令和2年2、3月

注1),1') 1報は平成30年6月に再投稿されるも、種別変更(報文→研究ノート)のうえでの再投稿を促しての不採択

注2)平成29年10月投稿で不採択となった報文が資料として再投稿され採択

注3),3')種別変更(報文→研究ノート)のうえでの再投稿を促しての不採択、その後再投稿され採択

注4)平成30年度奨励賞 注5)平成30年度奨励賞(2報)、平成30年度学会賞(1報)

注6)平成30年2月投稿で不採択となった報文が再投稿され採択 注7)平成30年度学会賞 注8)1報は取り下げ

注9),9')種別変更(報文→研究ノート)のうえでの再投稿を促しての不採択、その後再投稿され採択

注10)種別変更(研究ノート→資料)のうえでの再投稿を促しての不採択

注11)平成30年度技術賞 注12)種別変更(報文→研究ノート)のうえでの再投稿を促しての不採択

注13)令和元年度学会賞、奨励賞

注14),14') 2報とも種別変更(報文→研究ノート)のうえでの再投稿を促しての不採択、その後再投稿され、1報は採択、1報は取り下げ

注15)令和元年度奨励賞

注16),16') 1報は種別変更(報文→資料)のうえでの再投稿を促しての不採択、その後再投稿されるも不採択

注17),17') 1報は種別変更(研究ノート→資料)のうえでの再投稿を促しての不採択、その後再投稿され審査中

注18)1報は取り下げ 注19)令和元年度技術賞

注20)不採択のうち1報は種別変更(報文→研究ノート)のうえでの再投稿を促しての不採択

\*平成30年度 投稿論文 26編  
 採択率 60% (取り下げ除く)  
 掲載可 15編 (平均所要日数 65日) 掲載否 10編 (平均所要日数 60日)  
 取り下げ 1編 審査中 0編

\*令和元年度 投稿論文 33編  
 採択率 54% (取り下げ及び審査中除く)  
 掲載可 14編 (平均所要日数 73日) 掲載否 13編 (平均所要日数 41日)  
 取り下げ 2編 審査中 4編

②発行状況

巻号	総説	報文	研究ノート	資料	速報	書評	計
72-2	2	0	1	0	0	0	3
72-3	0	1	1	0	0	1	3
72-4	1	1	1	0	0	0	3
72-5	2	1	0	0	0	0	3
72-6	1	1	1	0	0	1	4
73-1	2	0	0	0	0	2	4
総計	8	4	4	0	0	3	20

③刊行状況

巻号	納本日	予定日
72-2	4月10日	4月10日
72-3	6月10日	6月10日
72-4	8月12日	8月12日
72-5	10月10日	10月16日
72-6	12月10日	12月10日
73-1	2月10日	2月13日

④編集委員会を令和元年5月18日に開催した。

(2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV)

①編集状況

日本ビタミン学会との共同編集 Vol. 65-No. 2~No. 6、Vol. 66-No. 1の刊行

JNSV編集委員会報告

2019年12月31日現在

理事会 資料提出日	Vol	年	分野別投稿数						分野別採択数						備考
			Total	V	N	F	R	Note	Total	V	N	F	R	Note	
3月23日	65	2019	41	7	30	4	3	2	30	5	23	2	0	8	65-2まで
5月16日			92	13	66	13	9	10	40	7	30	3	0	10	65-3まで
7月20日			131	17	96	18	9	16	50	10	36	4	1	12	65-4まで
11月2日			199	31	135	33	13	25	74	17	51	6	5	16	65-6まで
2月9日			245	44	158	43	16	33	74	17	51	6	5	16	65-6まで

(各号の内訳)							巻号
Total	V	N	F	R	Note		
15	3	11	1	0	2		65-1
15	2	12	1	0	6		65-2
10	2	7	1	0	2		65-3
10	3	6	1	1	2		65-4
12	3	8	1	2	2		65-5
12	4	7	1	2	2		65-6

J.Nutr.Sci.Vitaminol. 原稿状況 (2019年12月31日現在)

Vol.57													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	14	15	9	10	13	14	16	19	18	14	10	15	167
掲載数		No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6	
		18		12		9		8*		9		9	65
													*IUNS報告を除く
Vol.58													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	6	14	17	10	12	8	13	18	17	14	12	12	153
掲載数		No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6	
		11		11		10		12		10		11	65
Vol.59													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	12	14	17	12	13	10	16	11	7	11	9	12	144
掲載数		No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6	
		11		12		12		15		14		16	80
													*59-Suppl.を除く
Vol.60													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	13	17	13	11	11	9	15	13	11	7	16	10	146
掲載数		No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6	
		10		10		10*		12		9		14	55
													*IUNS報告を除く
Vol.61													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	16	4	16	16	23	19	19	13	14	18	14	12	184
掲載数		No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6	
		15		14		12		10		11		13	75
Vol.62													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	14	22	23	19	19	17	20	11	15	16	26	17	219
掲載数		No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6	
		11		10		8		10		14		9	62
Vol.63													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	21	20	16	15	23	14	15	12	11	15	14	16	192
掲載数		No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6	
		11		9		9		9		10		11	59
Vol.64													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	20	19	16	10	20	22	18	16	26	18	14	18	217
掲載数		No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6	
		11		10		11		11		11		12	66
Vol.65													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	17	16	33	22	19	17	24	13	23	17	16	28	245
掲載数		No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6	
		15		15		10		10		12		12	74

JNSV投稿内訳および結果

Vol.	Year	Total No.*	V		N		F		R		Note		年間掲載数	頁
			投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数		
52	2006	137	19	17	88	43	30	11	1	16	11	71	497	
53	2007	134	22	16	92	51	20	21	2	18	17	88	577	
54	2008	154	20	16	103	57	31	8	3	23	11	81	531	
55	2009	165	23	10	112	56	30	12	1	28	16	78	538	
56	2010	172	29	11	115	44	28	13	1	25	12	68	470	
57	2011	167	28	8	104	49	35	8	2	24	10	65	460	
58	2012	153	33	11	107	43	13	11	1	28	18	65	466	
59	2013	144	27	22	96	51	21	7	4	24	20	80	614	
60	2014	146	29	11	90	42	27	13	3	27	11	66	471	
61	2015	184	39	14	113	46	32	15	0	29	17	75	543	
62	2016	219	33	15	156	38	30	9	2	19	9	62	451	
63	2017	192	33	12	123	36	36	11	1	26	6	59	446	
64	2018	217	37	15	146	37	34	14	4	29	13	66	501	
65	2019	245	44	17	158	51	43	6	5	33	16	74	573	

\* V, N, Fの合計。

採択率・却下数(2019.12.31現在)

論文提出日	2015/1/1-2015/3/30 (旧システム)	2015/3/31-2015/12/31 (新システム)	合計	採択率
採択数	14	31	45	
却下数	16	87	103	
合計			148	30.41%

注)新システムでは採択率＝採択数/採択数＋却下数になります。

論文提出日	2016/1/1-2016/12/31			
採択数	63			
却下数	120			
			183	34.42%

論文提出日	2017/1/1-2017/12/31			
採択数	60			
却下数	117			
			177	33.90%

論文提出日	2018/1/1-2018/12/31			
採択数	77			
却下数	106			
			183	42.07%

論文提出日	2019/1/1-2019/12/31			
採択数	73			
却下数	130			
			203	35.96%

②採択率は約36%であり概ね基準通りに採択されていること、採択までにかかる期間が長すぎることもなく順調に編集作業が行われている。2018年のインパクトファクター1.125であり、2016年の0.6と比べると約2倍高くなっている。

③編集委員の交代(7名)

(3) 学会監修出版物

「腸内細菌—宿主のクロストークと食事要因」 森田 達也、園山 慶、辻 英明 (建帛社)

2) 広報事業

本事業は、広報委員会を通じ展開された。

(1) 報道機関向け広報

- ①第73回大会開催にあたり、報道機関へプレスリリースを実施した。(平成31年4月22日)
- ②第74回大会開催にあたり、報道機関へ事前に主なテーマについての発表(令和2年4月22日予定)実施の準備

(2) 会員向け情報の告知

学会内の動き、関連学術団体、関連機関(大学・官庁等)からの情報、依頼記事(募集・告知等)について、広報推進を行った。

- ①ホームページ管理業務委託業者を通じ、定期的及び緊急的に情報を掲載
- ②会員向けメールマガジン栄食ニュースは定期的(1回/月)の他、必要に応じ臨時号を発信  
ホームページへの掲載の紹介及びタイムリーな記事掲載を行い、以下18号発信  
2019-4(通算207号 4/10)、2019-5(通算208号 5/10)、2019-6(通算209号 6/10)、2019-7(通算210号 7/11)、2019-8(通算211号 8/9)、2019-9(通算212号 9/10)、2019-10臨時号(通算213号 10/4)、2019-10(通算214号 10/10)、2019-11(通算215号 11/11)、2019-11臨時号(通算216号 11/15)、2019-12(通算217号 12/10)、2019-12臨時号(通算218号 12/20)、2020-1臨時号(通算219号 1/7)、2020-1(通算220号、1/10)、2020-2(通算221号、2/10)、2020-2臨時号(通算222号 2/13)、2020-2臨時号(通算223号 2/25)、2020-3(通算224号、3/10)
- ③国内学術団体からの事業関連の連絡・通知
  - \*日本学術会議  
日本学術会議発行メールニュース(No.672~No.706)の周知の実施
  - \*日本医学会  
シンポジウム等の開催周知協力の実施

### Ⅲ 管理業務報告

#### (1) 内閣府からの通知・連絡対応

##### ①内閣府より

- \*公益法人メールマガジン(第66号～第92号)受領
- \*公益法人 information「事業報告等の提出」のお知らせ(4/1)
- \*公益法人 information「事業報告等の提出」のお知らせ(6/3)
- \*公益法人 Information から様式チェック結果通知(提出可)(6/13)
- \*公益法人 Information から様式チェック結果通知(修正要)(6/17)
- \*公益法人 information「事業報告等の提出」受付のお知らせ(6/18)
- \*【周知・内閣府】消費税転嫁対策特別措置法の遵守について(7/3)
- \*メール通知「事業計画書等の提出完了」(整理番号 2000151711)の案内(3/30)

##### ②内閣府へ

- \*「国と特に密接な関係がある公益法人への該当性の有無」をHPに掲載(4/1)
- \*平成30年度事業報告書等をオンライン提出(6/18)
- \*令和2年度事業計画書等をオンライン提出(3/30)

#### (2) 文部科学省

- \*令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について(6/30受領、7/23回答)
- \*令和2年度(第61回)科学技術週間について(依頼)(2/25受領)

#### (3) 厚生労働省

- \*医薬品・医療機器安全性情報報告制度の周知
- \*医薬品・医療機器安全性情報 No. 362～No. 371 の周知依頼
- \*「日本人の食事摂取基準」策定検討会の報告書の公表

#### (4) 農林水産省

- \*特になし

#### (5) 日本学術会議

- ① 日本学術会議発行メールニュース(No. 630～No. 706)の周知
- ② 【御案内】令和元年度 日本学術会議協力学術研究団体の実態調査について(10/1受領、10/7回答)
- ③ [nosip]日本学術会議会員及び連携会員の候補者に関する情報提供について(12/4受領、関係者に連絡)
- ④ [nozip]【御礼・御案内】協力学術研究団体対象のアンケート調査協力のお願い(1/8受領、1/16回答)
- ⑤ [ご回答依頼 28日メ]日本学術会議「軍事的安全保障研究に関する声明」についてのアンケートにつきまして(1/26受領、理事に転送、1/27回答)
- ⑥ [nozip]【周知・内閣府】新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえたイベント開催の取扱いについて(協力依頼)(2/25受領、理事・監事・庶務幹事へ転送)

#### (6) 日本医学会・日本医学連合

- ① [ibunka-ml]の周知
- ② [all-member]の周知
- ③ 日本医学会だよりの掲載
- ④ 日本医学会に関するアンケートの回答
- ⑤ 日本医学会総会 2019 中部(平成31年4月26日)への出席
- ⑥ 第5回研究倫理教育研修会(令和元年5月30日)への出席
- ⑦ 医学会連合定時総会への出席依頼(令和元年6月15日)
- ⑧ 日本医学会・医学用語委員会(令和元年12月17日)への出席
- ⑨ 医学会連合連絡協議会(令和2年2月6日)への出席
- ⑩ 日本医学会定例評議委員会(令和2年2月28日)への出席予定、中止となり書面決議の回答送付(3月3日)

#### (7) 関連団体との共催、協賛、後援の許可

- ・日本栄養士会「栄養の日・栄養週間 2019」後援
- ・ILSI JAPAN「第8回栄養とエイジング」国際会議後援
- ・タマゴ科学研究会「第6回タマゴシンポジウム」後援
- ・日本アミノ酸学会「第13回アミノ酸学会学術大会」後援
- ・公益財団法人不二たん白質研究財団「公開講演会—大豆のはたらき in 東京—子供の栄養・健康を通して—」後援
- ・日本食品・機械研究会「第18回高付加価値食品開発のためのフォーラム」協賛
- ・日本トリプトファン研究会「第39回学術集会」協賛
- ・ヒアルロン酸機能性研究会「第5回学術大会」協賛
- ・たまご研究会「第15回日本たまご研究会」後援

- ・静岡健康・長寿学術フォーラム実行委員会「第24回静岡健康・長寿学術フォーラム」後援
- ・公益社団法人米穀安定供給確保支援機構「2019年度『食育健康サミット』」後援
- ・公益社団法人 日本油化学会「第19回基準油脂分析試験法セミナー」協賛
- ・食品化学新聞社「ifia JAPAN 2020—第25回国際食品素材/添加物展・会議」[HFE JAPAN 2020 第18回ヘルスフードエキスポ] 後援
- ・公益社団法人日本油化学会関東支部「令和元年度第3回油化学セミナー」協賛
- ・日本糖質学会「第39回日本糖質学会年会」共催
- ・食品ハイドロコロイド研究会「第31回食品ハイドロコロイドシンポジウム」協賛
- ・食品ハイドロコロイド研究会「食品ハイドロコロイドセミナー2020」協賛
- ・タマゴ科学研究会「第7回タマゴシンポジウム」後援
- ・日本アミノ酸学会「日本アミノ酸学会第6回産官学連携シンポジウム」協賛
- ・一般社団法人日本摂食障害協会「世界摂食アクションデイ2020」後援

(8) 利益相反 (COI) 関連

学会のCOIが本格運用されてから1年ですが、これまでのところ大きな問題は起こっていない。また、本年度よりJNSVのCOIも運用を開始した。現在、医学会全体で組織COIのことが議論されている。現状として、今後組織(学会)としてのCOIの開示は不可避であり、COI委員会を中心としてどのように運用していくかにつき、議論する必要がある。

#### IV 総会、理事会等の開催状況

(1) 社員総会

令和元年 5月17日(金) 9:00~9:50 静岡市清水文化会館 マリナート

(2) 理事会

平成31年 4月20日(土)	13:30~17:00	お茶の水女子大学
令和元年 5月16日(木)	15:00~17:00	静岡市東部勤労者福祉センター 清水テルサ
令和元年 7月20日(土)	13:25~17:30	お茶の水女子大学
令和元年 11月2日(土)	13:30~17:00	お茶の水女子大学
令和2年 2月9日(日)	13:30~17:00	お茶の水女子大学
令和2年 3月20日(金)	13:30~17:00	お茶の水女子大学

(3) 業務執行理事打合せ

令和元年 7月6日(土)	13:30~17:00	お茶の水女子大学
令和元年 10月19日(土)	13:30~17:00	お茶の水女子大学
令和2年 1月25日(土)	14:00~17:00	東京大学農学部 フードサイエンス棟1階
令和2年 3月15日(日)	13:30~17:00	お茶の水女子大学

(4) 名誉会員・顧問懇談会

平成31年 4月6日(土) 11:00~13:00 松柏軒

(5) 栄養・食糧懇談会

令和2年 2月15日(土) 13:30~16:00 お茶の水女子大学国際交流留学生プラザ

(6) 名誉会員・終身会員推薦委員会

令和2年 1月25日(土) 14:44~14:48 お茶の水女子大学